

2022年度事業報告

2022年度の社員総会で議決されました事業計画の実施結果を下記のとおり報告いたします。

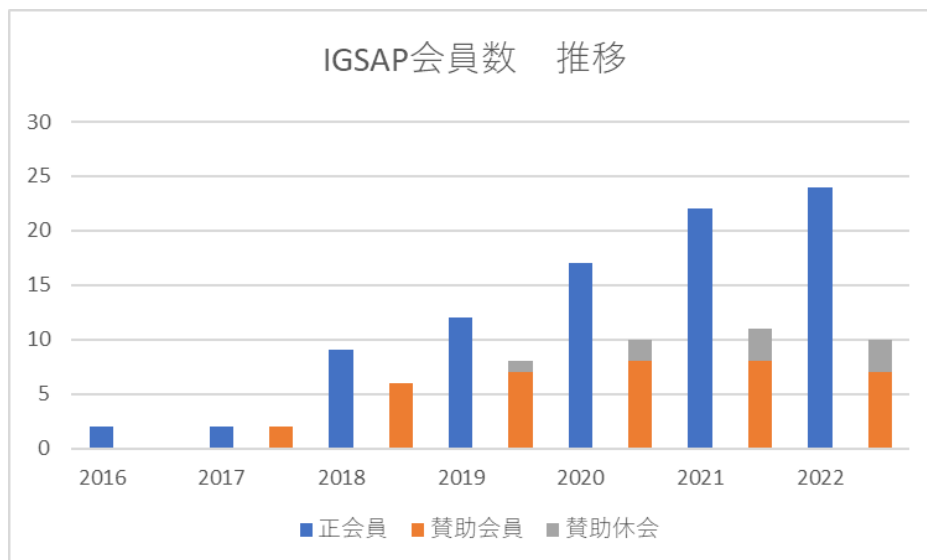
記

I. 総括

IGSAPは、2016年7月に設立以来、国際フォーラムの開催、2020年発行のIEC白書“Safety in the Future”への参画などの国際的な活動により、世界各国の安全関連団体と関係を構築してきた。昨年度は第2回ビジョンゼロサミット2022（2022年5月11日から13日オンライン開催、終了後アーカイブ配信）の日本開催を誘致し、開催することにより、国内外においてより一層、IGSAPの認知度が向上し、会員増加にもつながっている。また近年、欧州を中心に、職場における「安全、健康、ウェルビーイング」を提唱するビジョン・ゼロ活動が展開されているなか、ビジョン・ゼロ活動を推進してきたIGSAPとしては、働く人の身体的な安全が確保され、肉体・精神の健康が実現された上で、心の在り方としての生きがい、やりがいを目指すことが重要であると考え、「働く人の安全、健康、ウェルビーイングの向上を」を広く普及させるために、書籍『実践！ウェルビーイング』の著作に取り組んだ。

1. 会員数

2023年3月末における会員数は、法人・団体会員31社（法人・団体正会員24社、法人・団体賛助会員7社）、個人正会員4名、個人賛助会員（SA協議会会員）2210名である。2022年度は正会員として花王株式会社、トヨタ自動車株式会社、一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会に入会頂いた。今後も引き続き新規会員の入会を促進していく。



表：会員の入退会推移（2023年3月31日現在）

II. 重点施策活動概要

1. 認証スキーム

要員認証制度及び適合審査などの「認証スキーム」の構築、制度運用の拡大を積極的に推進する。

1) ロボットセーフティアセッサ資格認証制度

昨年度、ロボットセーフティアセッサの受験者数は350名を目標としたが、コロナウイルスの感染状況による影響もあり結果は244名と低調に終わった。ロボットセーフティアセッサのメインターゲットであるシステムインテグレータの受験者数増加の為に、FA・ロボットシステムインテグレータ協会と打合せを実施して、協会会員向けのロボットセーフティアセッサの受験のための講習会を企画するが、実施に至っていない。

2) セーフティオフィサ資格認証制度

2022年度のセーフティオフィサ資格の受験者は1400名の目標に対し結果は1258名で未達成であったが、前年対比で34.8%伸長と2020年の制度開始以来順調に推移している。

3) Safety2.0 適合審査登録制度

Safety2.0 適合審査登録制度は、2018年2月に開始し、2019年度は6件、2020年度は3件、2022年度は1件の審査登録数で推移してきた。2022年度は適合審査登録を6件の目標を設定したが、Safety 2.0適合審査登録のメリット（費用体効果）を上手く訴求できていないこともあり、0件という結果に終わった。また解りやすい基準にすべきという要望に応えるため、現行の基準の見直しを実施し、新たに「Safety2.0構築・運用のための一般要求事項：第2版」を作成し、2023年4月より現行制度に代わり新基準での運用を開始する。

2. 広報・表彰

1) 第2回ビジョンゼロサミット2022

第2回ビジョンゼロサミット2022は、「ニューノーマルにおける安全・健康そしてウェルビーイング」をテーマに、2022年5月11～13日（オンライン視聴とともに終了後オンデマンド配信）で開催した。本サミットは、WHOのテドロス事務局長や台湾のオードリータンIT大臣、日本からは後藤厚生労働大臣などの基調講演と、16テーマに及ぶテクニカルセッションで構成され、41カ国、地域から約200名の労働安全衛生の専門家、研究者に登壇頂いた結果、最終的に7852人に視聴頂いた。またサミットの最終日に「東京宣言」が発出され、ビジョンゼロサミットの参加者は、東京宣言の目標に対する進捗を次回以降のサミットで報告することとして、終了した。

2) 安全経営フォーラム

2023年3月10日に、IGSAP主催で「働く人のウェルビーイング」をテーマに、「従業員ウェルビーイングの取り組みと課題」を日本電気株式会社の青木勝様、「ウェルビーイング・アセスメントの取り組みと課題」をWell-being & PLI部会長の北條理恵子様、

「ウェルビーイングの世界的な潮流と今後について」を藤田理事から講演頂いた。

3) 向殿安全賞

本年度の向殿安全賞については、下記で決定した。表彰式については2023年5月11日にインテックス大阪にて開催されるウェルビーイングテックフォーラムでの実施を予定している。

受賞企業及び受賞者（敬称略）	分類	受賞賞
清水建設株式会社 Safety2.0技術トンネル現場実装推進チーム	団体	功績賞
東レエンジニアリング株式会社	団体	奨励賞
日本精工株式会社	団体	奨励賞
イギリス労働安全衛生協会（IOSH）	団体	特別功績賞
池田 博康	個人	功労賞
竹内 千里	個人	功績賞
Stuart Hughes	個人	功績賞
Mohammed Azman Aziz Mohammed	個人	功績賞
Ivan Ivanov	個人	功労賞

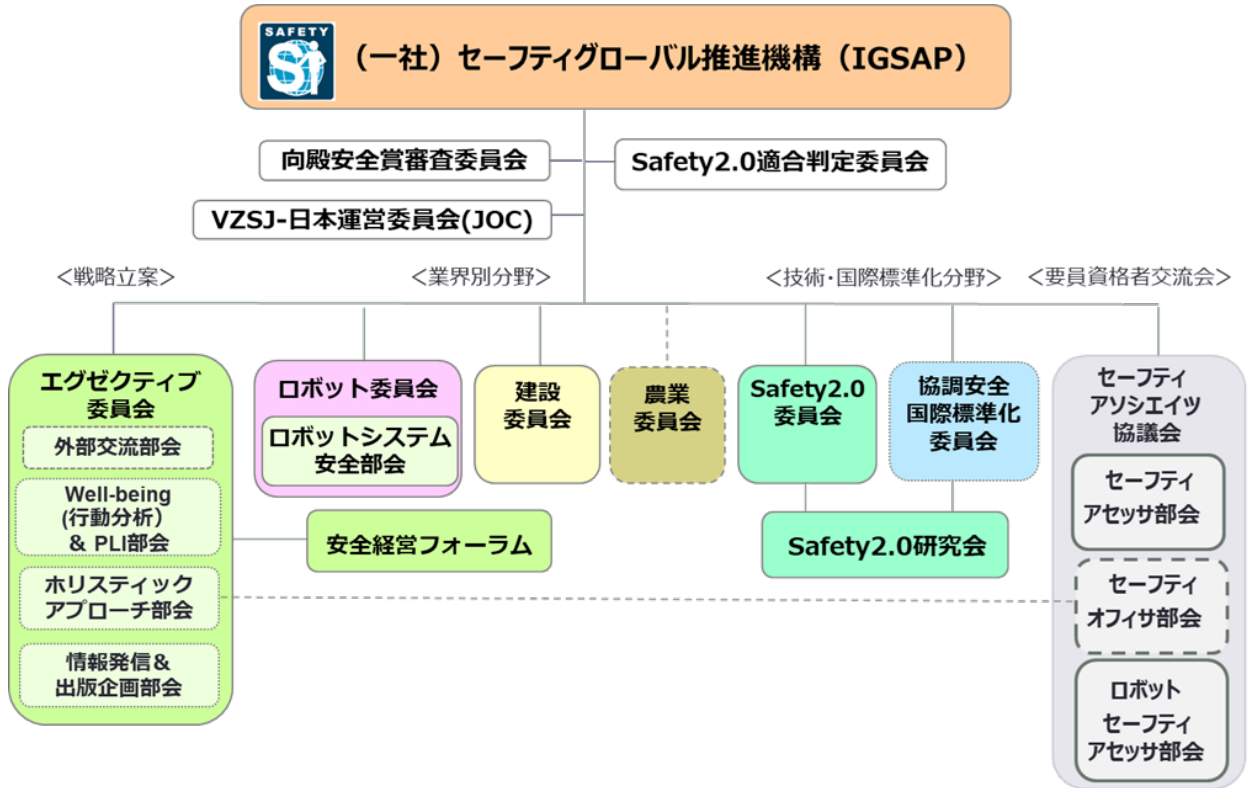
4) 書籍の執筆、発行

コロナ・パンデミックを契機として次の時代の価値観として、“安全な環境に囲まれて、幸せに暮らせる社会”の実現が強く望まれつつあるなか、企業において、ウェルビーイングが大きなテーマになってきている。業界・業種を超えた安全化に対する幅広いニーズに応えるIGSAPとして、「働く人の安全、健康、ウェルビーイングの向上」を広報するという目的でウェルビーイングを実践するための具体的な方法論を提示した「実践！ウェルビーイング」を2023年5月に発行する。本書は情報発信&出版企画部会が中心となり、国内外の専門家に執筆頂いたIGSAPとして初めての著作である。

3. 委員会活動

IGSAP の魅力度の向上（委員会組織、協議会組織について）

長い間、コロナ禍の影響で、委員会はオンライン会議を中心として開催していた。オンライン会議の利便性により出席率は向上するが、会員間のコミュニケーションや議論等が課題となった。昨年度からは、徐々にハイブリッド会議（集合会議とオンライン会議の併用）を増やすことにより、会員間のコミュニケーションは改善してきている。SA協議会（セーフティアソシエイツ）内にセーフティオフィサ部会を新設し、セーフティオフィサ資格の社会的認知度の向上と資格者の地位の向上、技術力の向上を目指して活動を開始した。



図：IGSAP の組織図 (2022年度)

カテゴリー	ビジョン/仕組み	業界/要員認証/人材育成		技術	要員認証
委員会	エグゼクティブ委員会 委員長：藤田俊弘	ロボット委員会 委員長：小平紀生	建設委員会 委員長：河田孝志	Safety2.0委員会 委員長：谷川民生	セーフティアソシエイツ協議会 会長：向殿政男
部会	外部交流部会 部会長：藤田俊弘 Well-being&PLI部会 部会長：北條理恵子 ホリスティックアプローチ部会 部会長：梶屋俊幸 情報発信&出版企画部会 部会長：荻原博之	ロボットシステム安全部会 主査：野田哲男			セーフティアセッサ部会 部会長：大賀公二 ロボットセーフティアセッサ部会 部会長：園子憲司 セーフティオフィサ部会 部会長：高木智弘
フォーラム/研究会	安全経営フォーラム 会長：藤田俊弘			Safety2.0研究会 主査：谷川民生	

表：各組織長 (2022年度)

4. 委員会、部会、研究会、協議会の活動状況、課題および今後の取り組み

注：評価 ○：90～100%達成 △：50～89%達成 ×：50%以下達

エグゼクティブ委員会（安全経営フォーラム） 2022年度活動結果

2022年度活動総括		委員長 藤田 俊弘		
1. ビジョンゼロサミット 2022 を開催し好評を頂き、国内外で IGSAP の認知度が向上した。 2. IGSAP の新たな基本方針「働く人のウェルビーイング」の研究を実施し、ウェルビーイングの書籍出版に向け執筆した。(2023年5月発行予定) エグゼクティブ委員会開催日第1回 2022年4月26日、第2回 2022年8月26日、第3回 2023年2月2日 安全経営フォーラム開催日 2023年3月10日				
重点テーマ	2022年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ビジョンゼロサミット 2022 を成功させ、国内外で IGSAP の認知度上げる。 目標：協賛会社 20 社 (プラチナ 5、ゴールド 5、シルバー 10)	・2022年5月11日から13日に、ビジョンゼロサミット 2022 が日本でオンライン開催（終了後アーカイブ配信）した。本サミットでは、WHO のテドロス事務局長や台湾のオードリータン IT 大臣、日本からは後藤厚生労働大臣などの基調講演とともに 200 名の労働安全衛生および協調安全技術分野などの、世界的専門家やグローバル企業のリーダーが 16 セッションで講演した ・協賛はプラチナ 4 社、ゴールド 1 社、シルバー 12 社となったが、有料視聴者数は予定を下回った。	○	・参加者 7852 名、アーカイブは 40,000 回以上視聴頂いた。サミットの最後に発出された東京宣言では協調安全について取り上げて頂き、IGSAP が進めている協調安全が労働安全衛生の世界的なサミットにおいて認知されたと考える。 ・経費的には少額の支出増であった。	ビジョンゼロサミット 2022 の成功を単発的に終わらせるのではなく、継続的な活動を続ける必要がある。
2. 「ビジョン・ゼロ」「ウェルビーイング」をテーマにした書籍の発行	情報発信&出版企画部会として、「働く人のウェルビーイング」というタイトルで書籍を 2023 年 5 月に発行を予定する。国内外の関係者に執筆頂き「企業はなぜ今、ウェルビーイングに取り組まなければならないのか」「ウェルビーイング推進を支援するテクノロジー」などを事例含めて紹介する。	○	IGSAP としては初めての書籍発行になるが、本書籍の出版により IGSAP の認知度向上と会員拡大に貢献すると考える。	当初の発行予定から遅れたが予定どおり出版できた。来年度は本書籍の発行にあわせてイベントなどを企画する。
3. 「安全、安心、ウェルビーイング」の普及活動	・ビジョンゼロサミット 2022, のセッション J と N にてウェルビーイングをテーマとした講演を実施した。 ・安全経営フォーラムで「従業員ウェルビーイングの取り組みと課題」、「ウェルビーイング・アセスメントの取り組みと課題」というテーマで発表頂いた。 ・向殿会長の「安全衛生の世界的動向」の著作や記事投稿などで市場への発信をした。	○	IGSAP が推奨する「安全・健康・ウェルビーイング」については、会員内外への情報発信はできた。また「ウェルビーイング・テック」という今後 IGSAP が推奨するコンセプトを創作できた。	「安全・安心・ウェルビーイング」を普及させるためには、来年度以降も継続的な活動が必要である。また賛助会員において IGSAP への加入メリットを打ち出すために安全経営フォーラムの活性化を考えていきたい。

2022 年度活動総括

委員長 河田 孝志

1. ビジョンゼロサミット 2022, 第 31 回 ISSA での活動により国内外で IGSAP の知名度、認知度が向上する。
 2. ワークショップの開催により機械安全の基礎知識の取得とレベルアップできた。
 3. 各社の安全関連への取り組み、新技術について情報共有することは意義があった。
 建設委員会開催日 第 1 回 2022 年 5 月 26 日、第 2 回 2022 年 8 月 24 日、第 3 回 2022 年 11 月 9 日、第 4 回 2023 年 2 月 21 日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 安全に関する情報を国内外に発信し建設業界における IGSAP のステイタスを向上させる。 ・ビジョンゼロサミット 2022 での講演、発表 ・海外機関との交流による海外事例の紹介 ・国交省（自動化・自律協議会）、（一社）日本建設業連合会（協調領域 WG）の情報共有	ビジョンゼロサミット 2022 にて建設セッション K において、国交省、労安衛研、鹿島、清水、NEXCO エンジニアリング関西をはじめ国内外から 14 人講演頂いた。 第 31 回 ISSA（国際社会保障協会）建設セッションの国際シンポジウム及び現場視察の情報を委員会で共有頂いた。 ・委員会において建設機械施工の自動化・自律化協議会の状況と（一社）日本建設業連合会（協調領域 WG）の活動状況共有頂いた。	○	・世界の多くの人に視聴頂いたサミットにおいて、IGSAP の建設委員会の会員各社が講演することにより、IGSAP の認知度が国内外で向上した ・国交省が進めている建設機械の自動化、自律化を進める安全対策の方針などの情報入手が可能になった。 ・業界の垣根を超えて安全化について討議することは、会員間の参考になった。	・ビジョンゼロサミット 2022 の成功を単発的に終えるのではなく、継続的に活動を続けて、IGSAP（建設委員会）の認知度向上に努め、会員数を増加させる。 ・i-Construction (ICT 活用) による建設システムの生産性向上とともに IGSAP が提唱している協調安全の広報、普及活動につなげる。
2. 建設業界での ICT を活用した安全事例（協調安全）から協調安全の考え方に基づいた安全方策について討議、検討	・安全において業界をリードすることを目指し機械安全のワークショップを 11 回開催した。 ・各社の安全への取り組み紹介 i-SAFE（鹿島建設）、安全 AI ソリューション（MetaMoji、大林組および労安衛研）、トンネル CIM、クラウド（演算工房）、現場サポートアプリ（日立建機）、フロントローディングから BIM/CIM（労安衛研）建設協調安全（清水建設） ・他業界会員（トヨタ、花王）のトンネル工事現場への見学	○	・機械安全のワークショップは、委員会での議論する上での基礎知識となった。 ・各社での安全対策に関連システム、商品の紹介は大変参考になり、建設業界の災害事例の共有についても討議できた。 ・業界の垣根を超えた安全化討議は有効であった。	・各社の安全への取り組みの情報共有、討議は有効であり継続して実施していきたい。 ・ワークショップは、安全の基礎知識の取得に関して効果があった。来期以降については建設業界において必要とされる安全の力量（知識、技能）について体系化したなかで次のテーマを決めた活動を検討する。
3. 建設業界におけるロボットシステムの自動化（建築、土木のロボットシステムの現状把握により、まずは実施体制を検討し来期以降の計画化に向けてフィージビリティスタディを実施）	ロボット委員会との合同で「国際規格に基づく AGV/AMR の安全」というテーマで脚光を浴びている自律移動ロボットについて、国際規格（JIS 規格）の要求事項などを、外部講師に説明頂いた。	△	自律移動ロボットについては、多くの課題が、建設業界のみならずものづくりの業界においても同様であることが解った。	来期についてもテーマを絞って具体的な実施計画を検討する。

2022 年度活動総括

委員長 小平 紀生

1. ロボットシステム導入設計段階でのリスクアセスメントとリスク低減方策の普及啓もう活動の実施
 2. 産業用ロボット以外のスコープ拡大のため他委員会との交流を通じた協業の実施
 3. 海外のロボット安全に対する取り組み実態調査実施のための対象国、アンケート案等次年度実施に向けての準備作業の実施
- ロボット委員会開催日 第1回 2022年5月17日、第2回 2022年8月23日、第3回 2022年11月21日、第4回 2023年2月20日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ロボット分野における人材育成（教育と資格） ・ロボット安全普及啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> ・設計段階によるロボットシステム導入のためリスクアセスメントとリスク低減方策についてのRSA資格制度を通じての啓もう普及活動の実施 ・RSA資格制度普及のため、ロボットシステムインテグレータの団体であるSIer協会へロボットシステム安全普及のためのRSA資格制度取得を提案 	△	RSA資格制度普及の一環としてSIer協会の会員に対し、ロボットシステム導入段階でのリスクアセスメントとリスク低減方策についての知識を習得してもらうため、協会技術委員会へロボットeラーニング+オンライン講習を提案、その結果まずセーフティアセッサ取得後、RSA資格取得を目指すこととなったが、実施のための協議まで至らなかった。	SIer協会との協業については、スケジュール管理が十分できていないので、来年度は、先方の担当窓口を明確にして、スケジュール管理を徹底し活動を展開する。
2. 産業用ロボット以外のスコープ拡大（例えば建設向等） ・建設、土木等産業用ロボット以外のロボット安全についての研究	<ul style="list-style-type: none"> ・大林組技術研究所に訪問し、建設業界におけるロボットの活用背景、活用状況とともにAGVから自律移動ロボットへの移行が進むなか、課題、今後の改善策について討議した。 ・建設委員会と合同で「国際規格に基づくAGV/AMRの安全」というテーマで、幅広い業界で活用されている自律移動ロボットについての国際規格（JIS規格）の要求事項などを外部講師により説明頂く。 	○	自律移動ロボットについては、ものづくり以外の業界においても、幅広いニーズと課題があることが解った。	本年度は自律移動ロボットの国際規格から業界での課題について取り組んだ。来年度は引き続きロボットにおける教育、資格制度以外についての他の委員会との協業含めて取り組んでいく。
3. 海外のロボット安全の体制と実態調査 ・産業用ロボット普及国におけるロボット安全の取り組みについての実態調査の実施	ロボットおよびロボットシステムの輸出あるいは現地向け現地生産において現地での安全適合性確保の実態や安全規格の普及および人材育成、安全資格制度など、国際レベルで共有できる活動の促進を図ることを目的として海外主要国での安全の体制について実態調査の立案、実施準備。	△	調査内容、調査国、調査依頼先等決定し、パイロットインタビュー実施。	実情把握という調査内容の難しさはあるので、調査目的を達成するためには調査先、調査内容を絞って活動を実施していく。

2022 年度活動総括

部会長 野田 哲男

1. ロボット競技会、展示会向けの、安全要求仕様書及びリスクアセスメントシートを作成した。
 ロボットシステム安全部会開催日 第1回 2022年6月28日、第2回 2022年11月18日、第3回 2023年2月16日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ロボット競技会向けリスクアセスメントと安全要求仕様書の標準化と公開	WRS2020 で作成した安全要求仕様書をベースにして、大会を通じた検証と委員の方々のコメントを参考にして部会としての最終仕様書としてまとめた。 また、リスクアセスメントシートについて、製造現場と異なる競技会、展示会という状況を十分考慮し、簡略ではあるがリスク分析、評価できるシートの雛形を作成した。	○	製造現場と異なる競技会、展示会向けの要求仕様書、リスクアセスメントシートの提案はWRSなどの関係者にも評価頂いた。今回作成した安全要求仕様書、リスクアセスメントは広く活用して頂けるように、活用、広報について部会で検討していく。	安全要求仕様及びリスクアセスメントの雛形を作成したが、他のロボットシステム関連の展示会や、競技会などにも活用頂けるので、IGSAP としての著作権を保持しながら、論文などを通じて広報していく。
2. WRS2020 の成果、課題から、今後の競技会での安全について提言	競技参加者からのコメントや安全監視団からのコメントなどを基に、今後の競技会での安全について課題、問題点を分析した。	○	競技参加者からのコメントや安全監視団からのコメントなどをベースに、今後の競技会での安全について課題、問題点を分析し、安全要求仕様書及びリスクアセスメントシートに反映した。	競技会用ロボットシステム構築の安全方策の指標として安全要求仕様の活用により技術面での安全についての提言が図れたが、運用面において競技者やデモ説明員に対して安全の基礎を理解してもらうための事前講習について、eラーニング+オンライン講習カリキュラムの見直しを図る。

2022 年度活動総括

委員長 谷川 民生

1. 協調安全に関するグローバルな活動がビジョンゼロサミット 2022 のテーマ報告からメンバーに共有できた。

2. 安全システムに AI の活用した判断結果はリスクレベルが、現状の世の中の許容レベルまでは至っていないことを共有できた。

Safety2.0 委員会研究会開催日 第 1 回 2022 年 7 月 6 日、第 2 回 2022 年 10 月 6 日、第 3 回 2022 年 12 月 6 日(委員会のみ)、第 4 回 2023 年 3 月 7 日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 協調安全に関連する事例と関連技術の調査研究をする。 (企画：委員会、実施運営：研究会)	第 1 回合同委員会において、2022 年 5 月開催されたビジョンゼロサミット 2022 で講演頂いた下記 3 件の協調安全に関連する事例について紹介し、討議した。 1) モノづくり分野における人を中心としたロボットとの協働・協調化 (トヨタ、吹田氏) 2) ハイブ・サイクルを超えて - 人とロボットの協調に関する動向と展望 (Fraunhofer, Jose Saenz 氏) 3) 人とロボットのインタラクションの安全性と信頼性の理解 (NIOSH, Marvin Cheng 氏)	○	日本、欧州、米国からの 3 事例の紹介により国内だけではなくグローバルにおいて、人と機械 (ロボット) の協調作業が始まっていることを共有化できたことは有意義で参考になった。また事例をもとに業界における安全の考え方の差異についても討議できた。	協調安全という新たな概念のアプリケーション事例、リスク低減方策は公開の困難さはあるが、要望も多いので多方面から情報を入手して来年度も実施していきたい。
2. 協調安全に係る新たな考え方を幅広く学び、これらを具現化するための技術を調査、研究する 例：ICT 活用したステップ 3 の「使用上の情報」、使用者による保護方策、ポジティブリスク、SOTIF、AI	第 2 回合同委員会において、問い合わせの多い人工知能 (AI) と安全、センサと安全制御という 2 つの観点で講演頂いた。 1) 安全関連センサ規格における人工知能 (AIST 角氏) 2) 人工知能と自立制御の安全 (AIST 藤原氏)	○	急速に進歩している AI については、様々な機械にも導入が始まっているが、AI、機械学習を機械に導入することのメリット、デメリットについて検討は有効であった。今回 AI と安全という観点での 2 件の説明は、現時点での AI 活用について参考になった。	AI、セキュリティ、ICT など技術開発が進むなか、新技術を知り、安全性を考えていかに活用するかを討議することは有意義と考えるので来期も実施検討する。
3. 協調安全の技術側面における標準化戦略の提案 (METI 委員会への提言)	第 3 回委員会において、IGSAP がスキームオーナーである Safety2.0 適合審査登録制度の一般要求事項の改訂案について説明、討議した。	△	改めて、Safety2.0 適合審査の位置づけ、実績などを説明したことは有意義であった。また一般要求事項案について委員の皆様と検討する良い機会になった。	一般要求事項案については、事前に送付して当日多くの方からの質問、コメントを頂くように準備したが、オンライン開催ということもありコメント、質問は限定された委員のみになった。今後幅広く討議できるテーマ、準備を検討する。

2022 年度活動総括

会長 向殿 政男

1. 各部会 (SA/RSA/SO) 共にオンラインを活用したスキルアップミーティング (SUM) を定期的にも実施することができた。各 SUM 共に参加者が、前年より増加した。
2. 新たに、SO 部会を設立し活動を開始する。
- SA 部会開催日 第1回 2022年12月2日、第2回 2023年2月16日
 RSA 部会開催日 第1回 2022年7月27日、第2回 2023年2月21日
 SO 部会開催日 第1回 2022年11月8日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. SA、RSA、SO 資格者の社会的認知度向上のための活動 ・協議会、部会で具体策の検討 ・外部への情報発信の検討、実施（雑誌投稿、学会、講演発表） 目標：3 件/年	今年度もコロナの影響もあり、対面型ではなくオンライン活用での活動となった。 ・部会員の向殿安全賞への推薦。 ・SUM 活動実施以外では具体的な計画立案までには至らなかった。 ・部会スキルアップミーティングの発表資料等ホームページにて公開し、資格者のレベルアップと謝意的認知度を上げる活動を展開した。	△	定期的なスキルアップミーティングを実施し、部会員の所属企業での認知度と部会員の安全知識のブラッシュアップができた。	企業において、安全教育の必要性、資格制度の認知は進んでおり、来年度も、引き続き資格者の社会的認知度向上のための活動を計画、実施する。各部会とも幹事メンバーが多忙のため活動に制限がかかるが、他団体との連携を含めて計画、実行する。
2. SA、RSA、SO 資格者の安全の力量向上 ・スキルアップミーティング (SUM) の開催 ・SA 資格者、課題別勉強会の実施	部会ごとに、個別課題 グループ別勉強会/見学会を実施 (WG 毎) ・SUM を以下のとおり開催した。 ①SA 部会: 第1回 2022年12月2日、第2回 2023年2月16日。 ②RSA 部会: 第1回 2022年7月27日、第2回 2023年2月21日。 ③SO 部会: 第1回 2022年11月8日 ・資格者のリスクアセスメント (RA) 実践のケースとして、SA 部会 2 回目の SUM で検討し、自動搬送車システムのリスクアセスメントを WG 有志により実施した。	○	・SUM の開催実施 【SA 部会】 関東/中部/関西 WG の活性化ができた。 【RSA 部会】 アンケートで要望が多かったロボットシステムのリスクアセスメントについて参加型 Web にて開催し危険源同定ポイントについて理解を深めていただいた。 【SO 部会】 部会活動を開始した。	・SUM の開催 【SA 部会】 SUM は、各回 500 名以上の参加があり、アンケートでも好評。ただし、集合型を望む声もあり次年度に実施検討する。 【RSA 部会】 Web 開催希望者多数のため次年度も Web 開催とし、ロボット安全に特化したテーマにて実施する。 【SO 部会】 取得者数から見て会員数が少なく（全取得者の 0.02%）会員数を増加させる必要がある。

2022 年度活動総括

部会長 北條 理恵子

1. 国内だけではなく、海外（ドイツ・フランス・アメリカ）のウェルビーイング及び行動分析学に関する最新動向を調査することができた。
2. 国内外に IGSAP の安全に関する取り組みなどを紹介することにより IGSAP の認知度向上に貢献した。
3. ウェルビーイングの定量評価法を確立した。

Well-being & PLI 部会開催日 第1回 2022年8月16日、第2回 2022年11月30日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. ウェルビーイングの具現化と浸透活動	<ul style="list-style-type: none"> ・日本機械学会、安全工学シンポジウム等の国内学会、ABAI、EuroABA 等の国際学会での発表、建産協、明治大学リバティーアカデミー等で W ウェルビーイング行動分析学についての講演、発表を行い、定量評価の方法や考え方等を広めた。 ・ドイツから行動分析家を招待し、共同で学会のシンポジウム開催や、研究会での特別セッションを行った。 ・アメリカのウェルビーイング尺度の開発者と今後ウェルビーイングネットワーク尺度の開発に取り掛かる計画で定期的な情報交換を行っている。 	○	<p>広く学術的な側面でのウェルビーイングの啓蒙に努めた。関連発表が表彰される等の成果を上げている。国際的な活動が日本機械学会で評価された。</p>	<p>PLI に関しては、デンマークサイドと共同で活動を行うべきであった。来年度は、PLI の国際比較等の活動を行い、ウェルビーイングも両国で評価したい。引き続きドイツ・アメリカとの国際交流は続けていきたい。</p>
2. 調査／実験・分析	<p>3 社と共同で産業用ロボットや IoT、AI 機器の現場導入に対する作業者のウェルビーイングの定量評価実験を行ない、3 つのウェルビーイング指標を数値化することができた。</p>	○	<p>学会発表や報告書に成果をまとめた。国際学会で IGSAP の成果として発表予定である。</p>	<p>論文を現在執筆中である。来年度の発表としたい。</p>
3. 規格化の推進（準備）	<p>詳しいメンバーを集め、定期的に規格化に向けての話し合いを重ねている。</p>	△	<p>現在、事務局を担ってくださる機関に働きかけを行っている。</p>	<p>体制含めて、引き続き活動を進めていく予定である。</p>

2022 年度活動総括

部会長 梶屋 俊幸

1. S0 資格のグローバル展開の準備とし、安全学 e ラーニングビデオの英語ニーズを把握した。
 3. ビジョンゼロサミット 2022 の準備対応に合わせて海外の各セクター専門家と交流した。
 Safety2.0 規格見直し編集会議 2022 年 6 月 14 日、2022 年 7 月 13 日、2022 年 7 月 20 日、2022 年 8 月 25 日、2022 年 9 月 28 日、2022 年 11 月 2 日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
Safety2.0 適合審査登録制度の見直し・国際化 (梶屋)	1) 制度運用ルールの見直しと最新化 2) 各種行事・講演会を通じた制度のプロモーション 3) 国内外機関との交流を通じた連携模索	○	・一般要求事項 (Safety2.0 規格) の全面見直しを完了し、次年度よりの運用を予定する。 ・7 月月刊誌 ISOS 寄稿、11 月 World Congress on Safety at Work へ寄稿する。 ・6 月 CSA 新規事業責任者との打合せ	・規格以外の制度運用に係るルール文書全般につき、実態を踏まえた全面見直しが必要であり継続して取り組む ・要請の都度対応、次年度も継続する。 ・海外機関への情報提供にあたり、国際的に対処できる基盤づくりが急務である。
S0 資格制度等のグローバル化 (有山)	1) 国内外の採用関心企業、関係機関との連携の模索 2) e-ラーニング動画の英語版作成継続 3) 安全四学英語版の電子出版準備 (e-ラーニング副読本+プロモーション)	△	・S0 資格制度採用企業の海外子会社展開は来期に予定する。 ・e-ラーニング動画の英語版を製作する。 ・e-ラーニング副読本着手開始する。	・展開に向け複数企業を対象としてプロモーションを継続する。 ・e-ラーニング動画/試験問題英語版を実装する。 ・e-ラーニング副読本で出版準備する。
建設委員会との海外活動交流 共同開催 (河田)	1) 海外建設関連 ICT 活用 (人・機械・設備) 情報の収集 2) 海外事例の紹介と国内事例の情報比較 3) 海外機関との交流を通じた連携模索	△	・ビジョンゼロサミット 2022、31st International Symposium of the ISSA Construction Section 及び 22nd Annual ORP Congress から各国の労働災害状況の情報を入手し、意見交換を行った。	・海外建設安全衛生関連組織 (ISSA 等) や組織と国際会議を通じて情報交換を活発化してさらなる交流を深める ・労働災害が少ない国の安全衛生の諸制度と安全文化について理解を深める。

2022 年度活動総括

部会長 荻原 博之

1. 書籍『ウェルビーイング』の企画・執筆を実施し、2023 年 5 月に出版を予定する。
 情報発信&出版企画部会開催日 2022 年 7 月 26 日、2022 年 8 月 17 日、2022 年 9 月 21 日、2022 年 10 月 25 日
 編集会議 2022 年 9 月 1 日、2022 年 11 月 18 日、2023 年 1 月 27 日

重点テーマ	2022 年度活動結果			
	実施内容	評価	成果	反省と来年度への課題
1. 「ビジョン・ゼロ」「ウェルビーイング」をテーマにした書籍の企画	2023 年 5 月発行を目指し、章構成、執筆者を決定した。 注目されている経営課題であるウェルビーイングに関し、世界が認めるアプローチ「ビジョン・ゼロ」を軸に、類書にない実践的内容を記載している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・IGSAP として、初めての書籍出版であり、内容的にも IGSAP の知名度、認知度向上に貢献する。 ・3 月の安全経営フォーラムで働く人のウェルビーイングというテーマで広報活動を行った。 	<反省> <ul style="list-style-type: none"> ・発行時期は当初 2022 年 3 月を目指したが、目次検討や社内調整などで 2023 年に 5 月になる。 <来年度への課題> <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年 5 月のものづくり EXP02023 において販促機会として広報活動を実施する。
2. 執筆態勢の整備	今まで築き上げてきた人脈を活用して、魅力的な執筆態勢を検討、依頼して執筆した。 (国内外 21 名による執筆)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・執筆態勢の整備し、国内はもとよりの海外人脈を活用した、超一流の執筆陣をそろえた。 	<来年度への課題> <ul style="list-style-type: none"> ・IGSAP の発展、そしてビジョン・ゼロを軸にしたウェルビーイングの推進に貢献できるような継続的なプロモーションを検討する。

Ⅲ. 定時社員総会・理事会の活動報告

1. 定時社員総会

2022年6月15日に定時社員総会を開催し、以下の議案が原案どおりに可決された。

(議案)

第1号議案 2021年度事業報告の件

第2号議案 2021年度決算報告、監査報告の件

第3号議案 2022年度基本方針及び事業計画の件

第4号議案 2022年度収支予算の件

第5号議案 理事、監事選出の件

2. 理事会

2022年4月より2023年3月までの間に理事会を5回開催し、下記の事項についてそれぞれの決議を行った。

(1) 第1回理事会 (2022年5月18日)

(議決事項)

第1号議案 2021年度事業報告 承認の件

第2号議案 2021年度の決算報告及び収支報告 承認の件

第3号議案 2022年度社員総会 承認の件

第4号議案 役員を選任の件

第5号議案 Safety2.0委員会委員長、研究会主査の交代の件

第6号議案 日本規格協会「標準化と品質管理全国大会2022」協賛 承認の件

(報告事項)

1) 令和4年度緑十字賞について

2) PL学会協賛の件

3) パナソニック株式会社 退会について

(2) 第2回理事会 (2022年6月15日)

(報告事項)

ビジョンゼロサミット2022開催の報告

(3) 第3回理事会 (2022年9月9日)

(議決事項)

第1号議案 IGSAP 建産協への相互入会 承認の件

第2号議案 ウェルビーイング出版書籍 承認の件

(報告事項)

1) 令和4年度緑十字賞受賞について

2) 向殿安全賞について

- 3) ビジョンゼロサミット 2022 後の IGSAP 活動計画
 - 4) ものづくり委員会検討部会（エグゼクティブ委員会）
 - 5) その他
- (4) 第 4 回理事会（2022 年 12 月 8 日）
- （議決事項）
- 第 1 号議案 ビジョンゼロサミット 2022 後の 2025 年万博に向けての活動
- （報告事項）
- 1) 令和 4 年度安全衛生教育推進運動の実施に伴う「協賛」のお願い
 - 2) 本年度の実施計画の報告と来期計画の作成
 - 3) 今期予算の進行状況
 - 4) IGSAP ホームページとメール
 - 5) その他
 - ・“働く人のウェルビーイング” の出版について
 - ・World Congress Sydney2023 の応募の延期と日本からの応募状況
- (5) 第 5 回理事会（2023 年 3 月 23 日）
- （議決事項）
- 第 1 号議案 2023 年度事業計画案 承認の件
- 第 2 号議案 2023 年度予算案 承認の件
- 第 3 号議案 古河機械金属株式会社 正会員入会 承認の件
- 第 4 号議案 非常勤役員の来年度契約 承認の件
- 第 5 号議案 Safety2.0 適合審査基準 承認の件
- （報告事項）
- 1) 正会員、賛助会員の退会について
 - 2) ものづくり EXP02023 の進捗状況と収入・支出計画について
 - 3) 委員会間の協業について（全員討議）
 - 4) PL 対策シンポジウム後援名義使用について
 - 5) 令和 5 年度緑十字賞候補の推薦について
令和 5 年度顕功賞候補者の推薦について
 - 6) インボイス制度の発行事業所登録について
 - 7) Safety2.0 適合審査関連費用について
 - 8) 2023 年度の広報活動（ウェルビーイング書籍の出版とものづくり EXP02023 後の活動）
 - 9) その他